

月刊

地域保健

2
2013

●座談会

業務委託の質を担保する

●フロントランナー

山本英子さん 《美浜町健康づくり課》

●ピープル

尾角光美さん 《一般社団法人リヴィオン代表理事》





山本英子さん

● 美浜町健康づくり課 主任保健師

推進力は向学心とチャレンジ精神！

保健師の強みを知り、重層的な支援を心がける

福井県美浜町

昨年12月のある日、大阪から乗り込んだ特急サンダーバードは日本海に向かい走っていた。車窓に広がる琵琶湖の景色をぼんやり眺めているうちに寝てしまい、次に目覚めたとき、目の前の景色は雪景色に変わっていた。やがて到着した敦賀駅。ここから在来線や車で20分も行けば風光明媚な若狭湾に面した美浜町に入していく。

今回の主役は町役場のすぐ隣、保健福祉センター「はあとびあ」内、健康づくり課に所属する山本英子さんだ。すてきな笑顔を絶やさず、とても小柄な方なのに何でも包み込んでくれるような温かさを感じる。

手を握り続けてくれた 看護婦さん

生まれも育ちも嫁ぎ先も美浜町という山本さん。子どものころの夢は幼稚園の先生だった。理由を尋ねると、養護教諭をしていた母の影響があつたら

「でも、母は半年ほど前（平成24年6月）に亡くなりました。葬儀にはたくさんの方に来ていただき、皆さん、母の学校時代の話をしてくれます。こんなに長く現役を離れていたのに覚えていてくださる方がいるなんて、あらためて先生という仕事の素晴らしさを感じました。もちろん、子どものころはそこまで仕事を理解していません。養護教諭というより『保健室の先生』との認識でした。母は看護婦の資格も持っていましたから、まさに何でもやっていた時代ですね」

幼稚園の先生への思いは高校に入つても持ち続けていた。ところが2年生のころ、股関節に異常が見つかり、手術を勧められた。リハビリテーションに相当の時間を要することも分かつていたため、すぐの進学はあきらめ、卒業後に入院し手術とリハビリを受けることにした。

手術は脊椎麻酔で行われた。全身麻酔なら何も分からず、本人にとつて

しい。ときおり学校に連れて行かれ先生という仕事に興味を持ったのが第一歩。一人つ子だったので、近所の幼い子どもたちと遊ぶのも楽しかった。また、ピアノを習っていたのでそれも生かしたかった。これらが重なり「幼い子どもたちの先生」という職業に憧れたわけだ。



業務委託の質を 担保する



◎十日町市
波形千恵子さん



◎秦野市
石川貴美子さん



◎大阪市
仲間いづみさん



◎杏林大学
山口佳子さん

業務量が増大し、厳しい財政事情でマンパワーが限られる中、行政職員だけで業務を遂行するのは無理がある。委託は時代の必然の流れである。しかし、委託の質の管理が不十分であるとの指摘がなされているほか、若手保健師がスキルアップの機会を失うことへの懸念もある。

座談会では主に介護予防分野を中心として業務委託とともにうる問題点を明らかにするとともに、委託というかたちをとりつつ、業務の質をいかに担保し保健師育成につなげていくかを話し合ってもらった。



目指すは、 地域に根ざした保健師

悩み多き中にも希望を忘れずに

堀北早紀さん

●宇城市健康福祉部健康づくり推進課

宇城市保健福祉センター



▲勤務先の保健福祉センター。広々としたつくりで開放感がある。

文・写真 西内義雄（医療・保健ジャーナリスト）

「芸名みたいですね？」
きっとよく言われているであろう問い合わせに「そうなんです、よく間違えられるのです（笑）」と、明るく答えてくれた今月のひよこさん。よく似た名前の女優さんが朝の連続ドラマの主人公をつとめていたこともあります。住民からの受けもいいようだ。

堀北早紀さんは彼女の母校、熊本大学の先生から「地域看護学実習を通して、急に保健師を目指す気持ちになつた人なんですよ。それが強く印象に残っています」との話を聞いたからだ。先生の記憶に残る人というのは、何かしら「持つてゐる」はずなので、取材をお願いした次第だ。

ていたようだ。もちろん、この時期の興味はどんどん目移りするのが常で、小学校高学年になると、興味の対象が養護教諭に変わっていた。

「保健室が好きだったのです。部屋の雰囲気や先生の人柄もあったのでしょうか、ゆったり落ち着けて、病気やけがでもないのによく顔を出していました。中学に入つても同じで、養護の先生はいつも優しくて、何でも話を聞いてくれたので憧れました」

中学の担任が男性だったこともあり、保健室の先生のほうがお母さんの

あつた。

「父が生花の卸業をしていまして、私が4歳くらいのときに母がお花屋さんを開いていたのです。その名前が私の名をもじって『フラワーショップ咲（さき）』と付けていたので、自分はこの店を継ぐんだと思っていたくらいです」

兄や弟もいたが、一人娘だったのでかわいがっていたのだろう。もっとも、乗り気だったのは父のほうで、母は手に職をつけることを以前から勧めること約30分。街道の右手に見えてきた宇城市保健福祉センターを訪ねる。

**中学から熊本大学を
目指していた**



▲中学では吹奏楽に熱中した